

# 学びのR

No. 33 (令和2年10月)  
 埼玉県教育局南部教育事務所  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

「R」は「reform(改革)」の頭文字です

## \*\*\* 「指導と評価の一体化」で授業改善⑦ \*\*\* ~ 「中学校 外国語科」編 ~

埼玉県マスコット「コバトン」

\* 今回は、三つに整理された評価の観点に基づく指導と評価の在り方の具体例について考えます。



### 外国語科の目標は？

小中高のつながりを意識することが求められています。詳しくは、「学びのR No. 27 (詳細版)」をご覧ください。

外国語活動

小・外国語科

中・外国語科

高・外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、

外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの

言語活動を通して、

簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る

資質・能力を育成することを旨とする。

※小中高の学習の段階で共通する部分を「赤字・ゴシック体」、  
 発展していく部分を「黒字・ゴシック体・下線」で示しました。

外国語の授業では、**単元や複数単元(大単元)を通して「指導と評価」を行うことが重要**となります。

埼玉県マスコット  
「さいたまっち」



「見方・考え方」を働かせるためには、「**社会・世界・他者との関わり(相手意識)**」と「**目的・場面・状況**」がキーワードになります。

重要な変更点として、**小学校3・4年生で外国語活動の導入、5・6年生で教科として外国語科の導入**が挙げられます。これまで以上に**小学校の学びとの接続を意識**することが必要となります。

※学習指導要領改訂の主旨や要点については、「埼玉県中学校教育課程編成要領」で確認しましょう。

### 内容のまとめりと三つの観点を確認しよう。

五つの領域の言語活動を通して、**コミュニケーションを図る資質・能力を育成**します。

#### 内容のまとめり (五つの領域)

聞くこと

読むこと

話すこと [やり取り]

話すこと [発表]

書くこと

#### 知識・技能

知 理解している  
 技 身に付けている

#### 三つの観点

評価規準の基本的な形

主体的に学習に取り組む態度

~しようとしている

#### 思考・判断・表現

聞 読 捉えている  
 話[や] 伝え合っている 話[発] 話している  
 書 書いている

### 各領域におけるそれぞれの評価規準の表記を一般化しよう。

基本的には、**三つの観点を一体的に評価**します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・(言語材料)の特徴やきまりを理解している。【知識】 ・(話題)について、(内容)を、(言語材料)などを用いて伝える技能を身に付けている。【技能】	(目的、場面、状況)に応じて、(話題)について、(内容)を、 <u>伝え合っている</u> 。	(目的、場面、状況)に応じて、(話題)について、(内容)を、 <u>伝え合おうとしている</u> 。
英語使用(言語面)の正確さ	内容面の適切さ	・思考・判断・表現と対の形で評価 ・思考・判断・表現と一体的に評価(例外あり)

※これは、「話すこと [やり取り]」の場合の参考例です。

**「指導と評価の一体化」を図る上での留意点について、Q & A形式で示しました。**

**Q 1 指導から評価までどのように進めるの？**

A 1 p.37

- ① 単元の目標を作成します。
- ② 単元の評価規準を作成します。
- ③ 「指導と評価の計画」を作成します。
- ④ 授業を実施します。観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげます。
- ⑤ 観点ごと総括的評価を行います。

**Q 2 「知識」と「技能」は、別のものではないの？**

A 2 p.71

知識・技能の観点では、「英語使用の正確さ」を評価します。英語使用が正確であれば、言語材料の知識を判断することが可能であるため、「使うことができる(技能)」側面と「理解している(知識)」側面についても一体的に評価できると考えます。

**Q 3 授業中の言語活動やパフォーマンステストでの「知識・技能」の評価について、当該単元等で指導した「特定の言語材料」が正確に使用できればいいの？**

A 3 p.55

「特定の言語材料」が必然的に使用されるよう、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などの工夫が重要です。その上で、「当該言語材料を含めた」英語使用の正確さを評価します。つまり、指導したことを評価します。

**Q 4 「思考・判断・表現」における「内容面の適切さ」は、どのように評価するの？**

A 4 p.52

単元や大単元を通じて、授業中の言語活動やパフォーマンステストにおいて、「引用しながら」「理由とともに」「やり取りを継続する」など、指導したことをふまえた「採点の基準」を示しておき、客観的な評価につなげます。

**Q 5 なぜ、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」は一体的に評価できるの？**

A 5 p.79

単元の評価規準において、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」を対の形にすることで、授業中の言語活動やパフォーマンステスト等で実際に見取ることができます。どちらもコミュニケーションを行う目的や場面、状況などが必ず含むものであるため、一体的に評価できます。

**Q 6 いつ、どのように「記録に残す評価」を行うの？**

A 6 p.50,51

評価の時期は、「単元の終末」と「後日」(パフォーマンステストやペーパーテスト、振り返りカード等)です。ただし、学習の途中段階の見届けは毎時間必ず行い、活動させるだけにならないようにするとともに、次時以降の指導に生かします。

**Q 7 「主体的に学習に取り組む態度」における、「自らの学習を調整しようとする側面」はどのように把握するの？**

A 7 p.81,82

以下のような「振り返りカード」などを活用することが考えられます。記述内容が、授業における言語活動への取組の様子に実際に表れていれば、総括の時点で評価を変えることも考えられます。

振り返りカードの参考例

<振り返りの視点>  
にチェックしよう。

.....ですか。  
 .....ですか。  
 .....ですか。

自由記述欄 (理由)

**☑を付けたものについて、この自由記述欄に、そのように評価した理由を記述します。**

振り返りの視点を複数個提示し、にレ点をつけるようにします。まずは、**振り返りの視点から自分を見つめる意識**を持たせます。

振り返りを書かせる際は、最初から自由記述にするのではなく、例えば、次のように<振り返りの視点>を設定して、欄に☑を入れさせます。これにより**教師が見届けやすくなったり、同じ視点に☑を入れた生徒同士で交流しやすくなったりする**などの利点が考えられます。

**Q 8 ペーパーテストでは、どのような点に配慮すればいいの？**

A 8 p.73

例えば、問うている箇所だけでは正解を判別できないような「文脈を問う問題」や「関連した文法事項との使い分けをさせる問題」などが考えられます。また、出題の種類やねらいによって、問題の特徴を変える必要があります。

ペーパーテスト問題の参考例 (主に「技能」を問う問題)

( )内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成立するように英語を完成する問題。

A: Where are you now?  
 B: I am at ABC park with Ken.  
 A: What are you and Ken doing?  
 B: (play) basketball now. Come and join us!

【正答例】 We are playing / we are playing  
 大文字・小文字の書き分けや綴り等に誤りが見られても、コミュニケーションに支障がないものは、正答として差支えないと考えます。 p.74

※下記の参考資料に、指導と評価の一体化についてさらに詳しく記載されています。

**参考** 中学校学習指導要領解説 総則編・外国語編 文部科学省  
 小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック 文部科学省  
 埼玉県中学校教育課程編成要領 埼玉県教育委員会

**引用** 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料  
 国立教育政策研究所 から引用して作成 例) p.〇〇

「学びのR」はこちらからも御覧いただけます!


